

**令和7〔2025〕年
広島県観光客数の動向**

**令和8年7月
一般社団法人広島県観光連盟(HIT)**

目 次

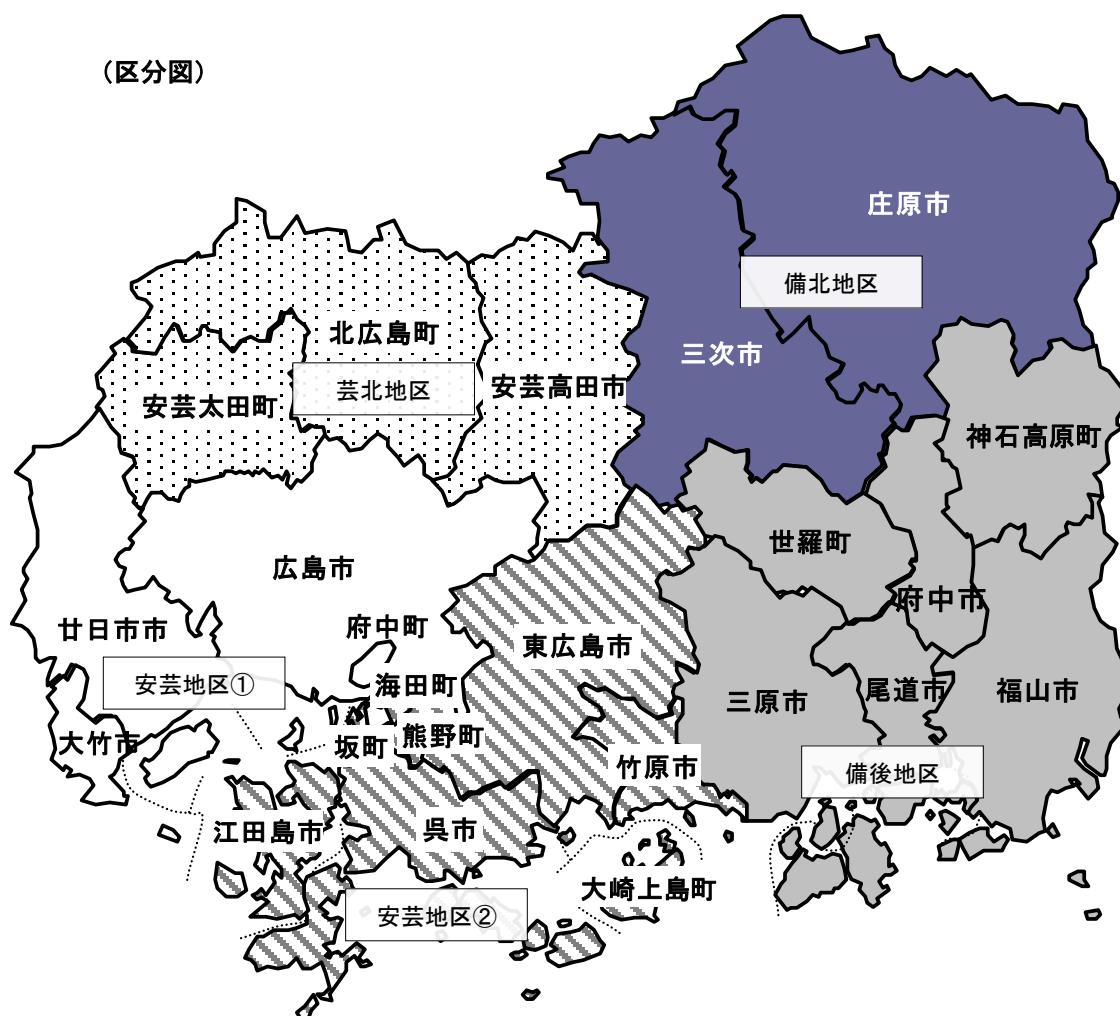
I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	2
1	観光客数の状況	2
(1)	総観光客数の概況	2
(2)	地区別観光客数の状況	3
(3)	発地別観光客数の状況	6
(4)	目的別観光客数の状況	12
(5)	旅行形態別観光客数の状況	13
(6)	交通機関別観光客数の状況	14
(7)	月別観光客数の状況	15
2	外国人観光客数の状況	16
(1)	外国人観光客数の概況	16
(2)	市場別外国人観光客数の状況	17
3	宿泊客数の状況	19
(1)	宿泊客数の概況	19
(2)	地区別宿泊客数の状況	19
(3)	月別宿泊客数の状況	21
4	観光消費額の状況	22
III	観光客数統計表	23
	第1表 総観光客数の推移	
	第2表 令和7年発地別観光客数と観光消費額	
	第3表 令和7年目的別観光客数	
	第4表 令和7年旅行形態別・交通機関別観光客数	
	第5表 令和7年月別観光客数	
	第6表 令和7年県内主要・有料観光施設の月別利用状況	
	第7表 令和7年市場別外国人観光客数	
	第8表 令和7年月別宿泊客数	

I 調 査 の 概 要

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

- 1 この調査は、各市町等が令和7年1月～12月の1年間（暦年）の当該市町の観光客数等を推計し、一般社団法人広島県観光連盟（HIT）で取りまとめたものである。
- 2 各市町の観光客数及び宿泊客数は、延べ人数である。
- 3 掲載した図・表の数値については、単位未満の端数処理を行っているため、観光客数統計表の数値と一致しない場合がある。また、観光客数統計表の数値についても同様であり、表内の項目計や表間で一致しない場合がある。
- 4 前年の総観光客数及び観光消費額について、前回報告後に一部自治体から数値の修正依頼があったことから再集計し、一部数値を修正している。
- 5 観光客数の状況等を地区別にみるため、下記の5地区に区分して整理している。

（区分図）



Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客数の状況

(1) 総観光客数の概況

① 令和7年の総観光客数

令和7年の総観光客数は6,559万人で、前年と比べて81万人（+1.3%）増加した。

令和7年は、広島空港の国際線増便や円安を背景とした訪日需要の拡大により、総観光客数が増加したと考えられる。なお、新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）拡大前の平成31（令和元）年と比べると161万人（▲2.4%）の減少となっている。主な要因としては国内の物価高騰や交通費・宿泊費の上昇による旅行全体のコストが増加し、国内観光需要が伸び悩んでいることが挙げられる。

図表1-1 総観光客数の比較

（単位：万人）

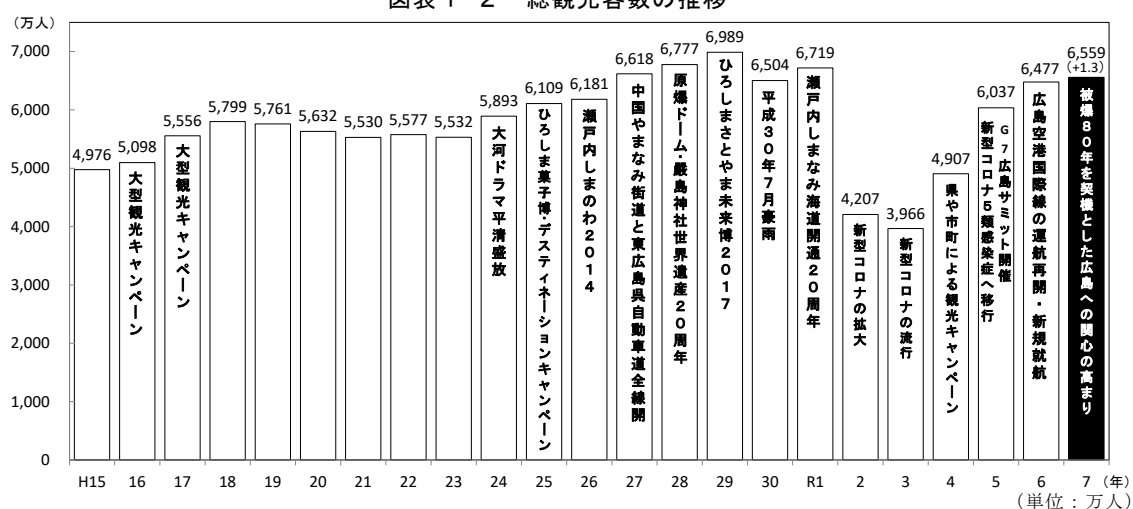
区 分	平成31 (令和元)年	令和6年	令和7年	増減数 R7-R6	増減率 R7/R6	増減数 R7-R元(H31)	増減率 R7/R元(H31)
総観光客数	6,719	6,477	6,559	+81	+1.3%	▲161	▲2.4%

② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成25年に初めて6,000万人を突破した後、平成29年まで6年連続で過去最高を更新しており、順調に推移していたが、平成30年は西日本豪雨災害等の影響により前年を6.9%下回ることとなった。

平成31（令和元）年は回復に転じたものの、令和2年には、新型コロナの世界的拡大により大幅に減少した。令和4年以降は、新型コロナによる行動制限の緩和や、県や市町による観光キャンペーン等の実施、G7広島サミットの開催等に伴い、徐々に観光客数が回復した。令和7年は国際線の増便や、被爆80年を契機とした広島への関心の高まりも観光客数増加の一因と考えられ、総観光客数は新型コロナ前と同水準程度にまで回復した。

図表1-2 総観光客数の推移



区 分	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総観光客数	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632	5,530	5,577	5,532	5,893	6,109	6,181
対前年増減率		▲1.7%	+2.5%	+9.0%	+4.4%	▲0.7%	▲2.2%	▲1.8%	+0.8%	▲0.8%	+6.5%	+3.7%

区 分	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
総観光客数	6,618	6,777	6,989	6,504	6,719	4,207	3,966	4,907	6,037	6,477	6,559
対前年増減率		+7.1%	+2.4%	+3.1%	▲6.9%	+3.3%	▲37.4%	▲5.7%	+23.7%	+23.0%	+7.3%

(2) 地区別観光客数の状況

① 市町別観光客数の状況

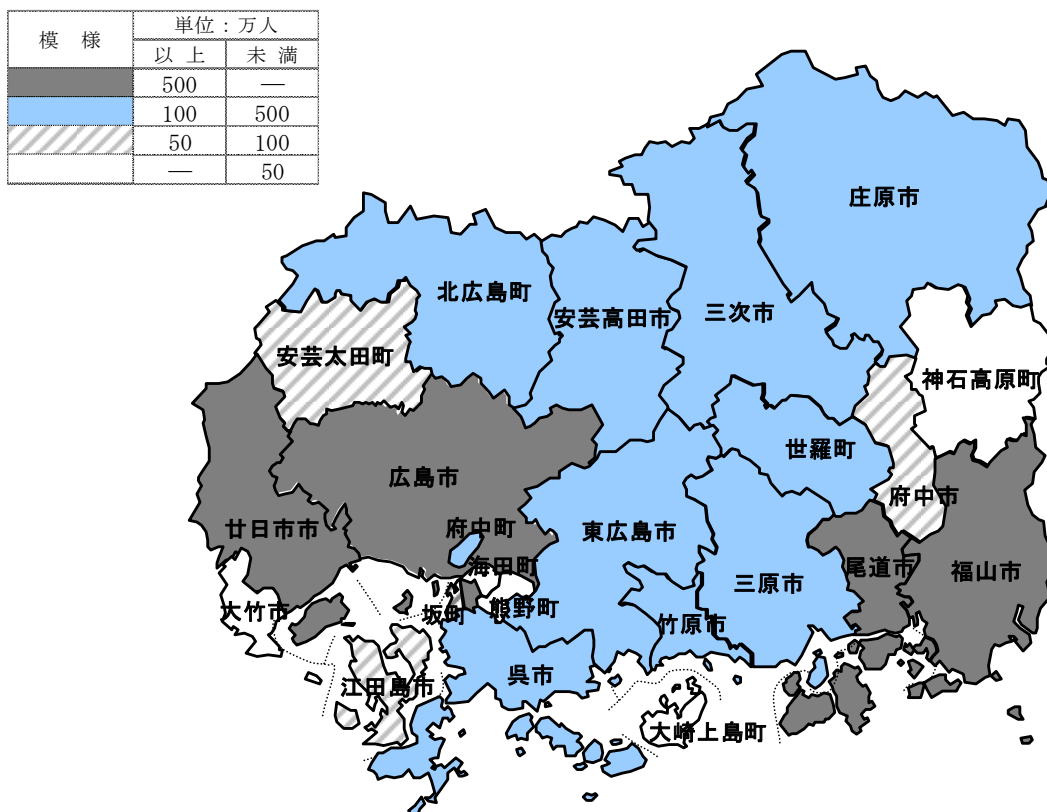
市町別にみると、総観光客数が 500 万人以上の市町は広島市、廿日市市、尾道市、福山市となっており、備北地区はいずれの市においても総観光客数が前年より増加した。

前年よりも総観光客数が減少した市町については、観光施設の休館による影響に加え、外国人観光客の回復による波及効果が限定的であること等から、観光客数の増加に至らなかったことが主な要因として挙げられる。

図表 1-3 市町別観光客数の増減一覧

総観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市、廿日市市、尾道市、福山市	
100～500 万人未満	10 市町	三次市、庄原市、竹原市	三原市、東広島市、呉市、世羅町、北広島町、安芸高田市、府中市
50～100 万人未満	4 市町	坂町、江田島市	府中市、安芸太田町
50 万人未満	5 市町	大竹市、海田町、熊野町、大崎上島町	神石高原町

図表 1-4 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位 10 市町）

観光客数を市町別にみると、上位 10 位となった市町に大きな変動はなかったものの、全体的に観光客数が増加した市町が多かった。9 位の三次市は前年と比べて、13 万人（+6.3%）増加し、順位が上昇した。

また、新型コロナ拡大前の平成 31（令和元）年と比べると、広島県全体では減少しているものの、坂町（+160.4%）、東広島市（+28.5%）、江田島市（+24.3%）、廿日市市（+13.2%）、安芸高田市（+11.5%）、熊野町（+9.4%）、安芸太田町（+5.1%）、三原市（+3.4%）、竹原市（+2.1%）、世羅町（+1.3%）は増加した。

図表 1-5 市町別観光客数の順位（令和 7 年上位 10 市町）

（単位：万人）

順位	市町名	平成 31 (令和元)年	令和 6 年	令和 7 年	増減数 R 7 -R 6	増減率 R 7 /R 6	増減数 R 7-R 元(H31)	増減率 R 7/R 元(H31)	R 6 順位
1 位	広島市	1,621	1,541	1,568	+27	+1.8%	▲53	▲3.3%	1 位
2 位	廿日市市	791	831	895	+64	+7.7%	+105	+13.2%	2 位
3 位	尾道市	683	667	670	+2	+0.3%	▲13	▲1.9%	3 位
4 位	福山市	630	556	608	+52	+9.3%	▲22	▲3.5%	4 位
5 位	三原市	416	431	430	▲0	▲0.0%	+14	+3.4%	5 位
6 位	東広島市	281	367	362	▲5	▲1.4%	+80	+28.5%	6 位
7 位	呉市	376	320	270	▲51	▲15.8%	▲106	▲28.3%	7 位
8 位	世羅町	229	235	232	▲3	▲1.3%	+3	+1.3%	8 位
9 位	三次市	348	209	222	+13	+6.3%	▲125	▲36.0%	11 位
10 位	庄原市	256	210	212	+2	+1.1%	▲44	▲17.1%	10 位

対前年増減率についてみると、県全体の増加率は+1.3%であったが、それより増加率が大きい市町は 10 市町、県全体よりも増加率が小さい市町（減少した市町を含む。）は 13 市町となった。

大竹市（+19.0%）が最も増加率が大きく、次いで竹原市（+10.6%）、福山市（+9.3%）の順となった。

図表 1-6 市町別観光客数の対前年増減率一覧（令和 7 年）

区分	市町数	市町名	対前年増減率
県全体の平均よりも 増加率が大きい市町	10 市町	大 竹 市	+19.0%
		竹 原 市	+10.6%
		福 山 市	+9.3%
		廿 日 市 市	+7.7%
		三 次 市	+6.3%
		海 田 町	+5.1%
		大 崎 上 島 町	+4.9%
		坂 町	+4.3%
		熊 野 町	+3.6%
		広 島 市	+1.8%
県全体の平均よりも 増加率が小さい市町	13 市町	庄 原 市	+1.1%
		江 田 島 市	+0.9%
		尾 道 市	+0.3%
		三 原 市	▲0.0%
		北 広 島 町	▲0.2%
		世 羅 町	▲1.3%
		東 広 島 市	▲1.4%
		府 中 町	▲2.0%
		神 石 高 原 町	▲2.1%
		安 芸 太 田 町	▲3.2%
		府 中 市	▲4.0%
		安 芸 高 田 市	▲14.6%
		呉 市	▲15.8%
(参考) 県全体の平均			+1.3%

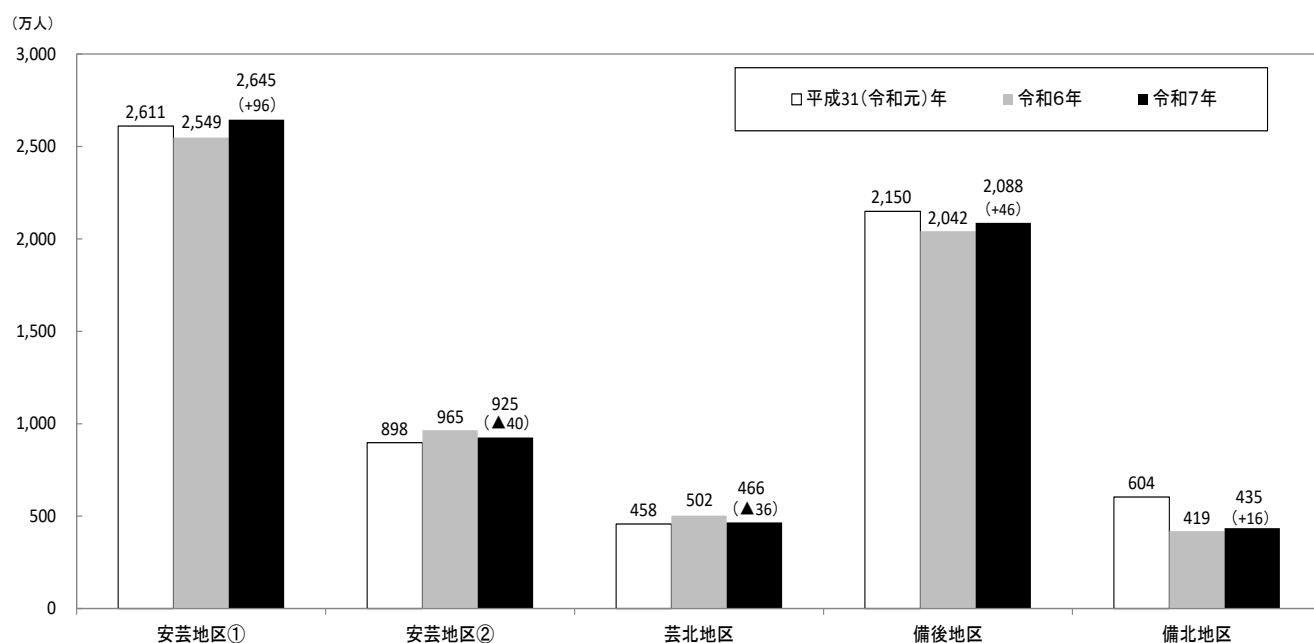
③ 地区別観光客数の状況

観光客数を地区別でみると、安芸地区①、備後地区、備北地区では前年よりも増加となり、安芸地区②、芸北地区では前年よりも減少となった。

安芸地区①が+3.8%（+96 万人）で最も増加率が大きく、次いで備北地区が+3.7%（+16 万人）、備後地区が+2.2%（+46 万人）の順となっている。

一方で芸北地区が▲7.2%（▲36 万人）で最も減少率が大きく、次いで安芸地区②が▲4.1%（▲40 万人）の順となっている。

図表 1-7 地区別観光客数の推移



(3) 発地別観光客数の状況

① 県内・県外別観光客数の状況

県内観光客（地元観光客を含む。）数は、前年と比べて 28 万人減の 3,142 万人（▲0.9%）、県外観光客数は 110 万人増の 3,416 万人（+3.3%）であった。

構成比でみると、県内観光客は 47.9%、県外観光客は 52.1%となっており、前年よりも県外観光客の割合が高くなった。

図表 1-8 県内・県外別観光客数の比較

（単位：万人）

区分	平成31(令和元)年 観光客数	令和6年 観光客数	令和7年 観光客数	増減数 R7-R6	増減率 R7/R6	増減数 R7-R元(H31)	増減率 R7/R元(H31)
県内	3,403 (50.6%)	3,170 (48.9%)	3,142 (47.9%)	▲28	▲0.9%	▲261	▲7.7%
県外	3,316 (49.4%)	3,307 (51.1%)	3,416 (52.1%)	+110	+3.3%	+100	+3.0%

（注）（ ）内は構成比を示す。

なお、県全体の観光客のうち、市町内（地元）観光客の構成比は 18.5%、市町外観光客の構成比は 29.4%となっている。

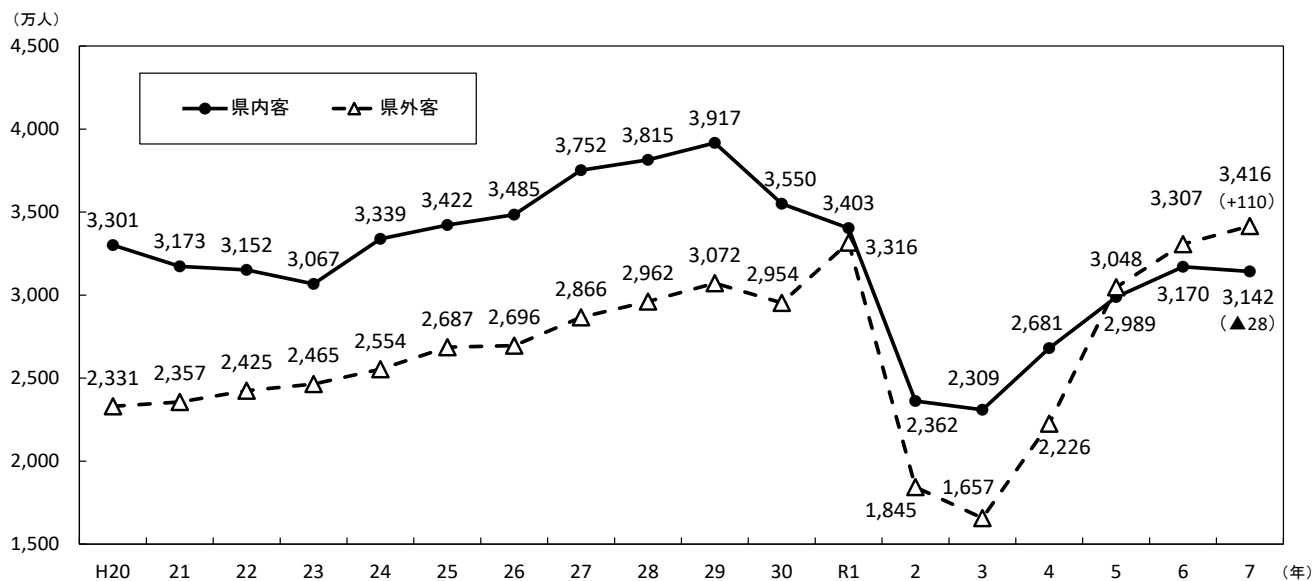
また、令和 7 年の構成比を、新型コロナ拡大前の平成 31（令和元）年と比べると、市町内（地元）観光客は 4.6 ポイント減、市町外観光客は 1.8 ポイント増、県外観光客は 2.7 ポイント増となった。

図表 1-9 市町内・市町外・県内外別観光客数の推移

（単位：万人）

区分	年次	県内観光客			県外観光客	総観光客数
		市町内（地元） 観光客	市町外観光客	計		
		(A)	(B)	(A)+(B)	(C)	(A)+(B)+(C)
実績	平成20年	1,415	1,886	3,301	2,331	5,632
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	5,530
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	5,577
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	5,532
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	5,893
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	6,109
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	6,181
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	6,618
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	6,777
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	6,989
	30年	1,750	1,800	3,550	2,954	6,504
	令和元年	1,549	1,854	3,403	3,316	6,719
	2年	996	1,367	2,362	1,845	4,207
	3年	976	1,333	2,309	1,657	3,966
	4年	1,145	1,536	2,681	2,226	4,907
	5年	1,202	1,787	2,989	3,048	6,037
	6年	1,264	1,906	3,170	3,307	6,477
	7年	1,211	1,931	3,142	3,416	6,559
構成比	平成20年	25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	100.0%
	21年	25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	100.0%
	22年	26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	100.0%
	23年	27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	100.0%
	24年	27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	100.0%
	25年	27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	100.0%
	26年	28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	100.0%
	27年	28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	100.0%
	28年	28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	100.0%
	29年	28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	100.0%
	30年	26.9%	27.7%	54.6%	45.4%	100.0%
	令和元年	23.1%	27.6%	50.6%	49.4%	100.0%
	2年	23.7%	32.5%	56.2%	43.8%	100.0%
	3年	24.6%	33.6%	58.2%	41.8%	100.0%
	4年	23.3%	31.3%	54.6%	45.4%	100.0%
	5年	19.9%	29.6%	49.5%	50.5%	100.0%
	6年	19.5%	29.4%	48.9%	51.1%	100.0%
	7年	18.5%	29.4%	47.9%	52.1%	100.0%

図表1-10 県内・県外別観光客数の推移



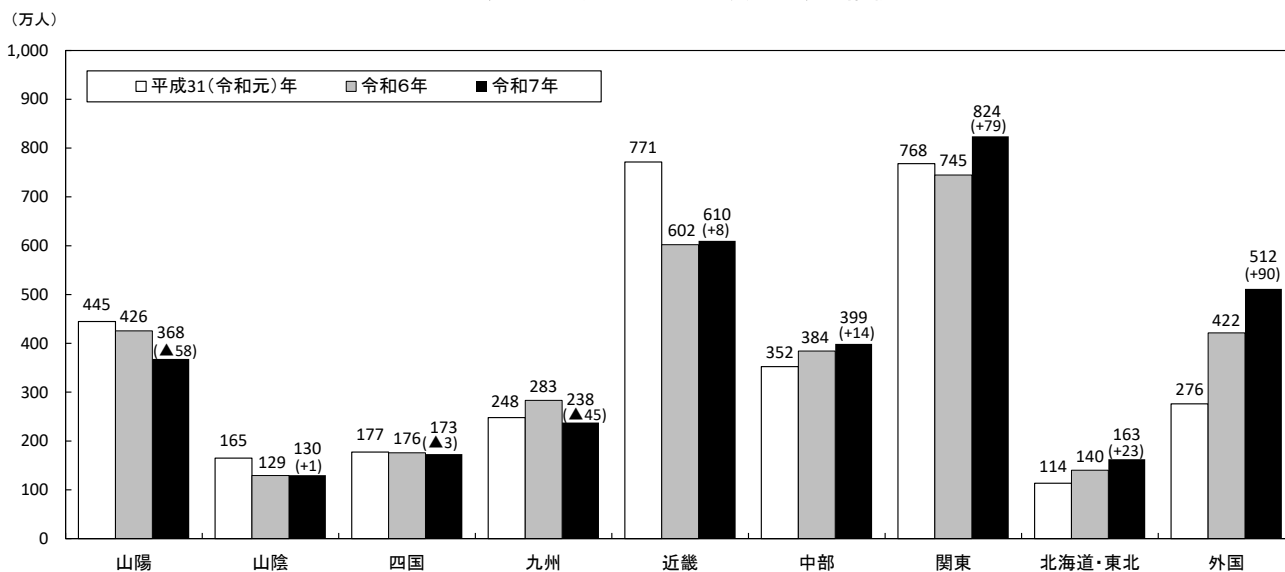
② 発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数は、関東地方が最も多く 824 万人（+79 万人）となった。

前年と比べて最も増加率が高いのは、外国+21.4%（+90 万人）で、次いで北海道・東北地方+16.1%（+23 万人）となった。

主要要因としては、継続的な円安による訪日需要の高まりに加え、広島空港国際線の増便等による利便性向上を背景とした、外国人観光客の増加が挙げられる。

図表1-11 発地エリア別観光客数の推移



県外客の発地エリア別観光客数の割合は、関東地方が 24.1%で最も高く、次いで近畿地方が 17.9%の順となった。

前年と比べると、外国からの観光客の割合が+2.3 ポイントと最も増加している。

図表 1-12 発地エリア別観光客数の割合

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
平成 31 (令和元) 年	13.4%	5.0%	5.3%	7.5%	23.3%	10.6%	23.2%	3.4%	8.3%
令和 6 年	12.9%	3.9%	5.3%	8.6%	18.2%	11.6%	22.5%	4.2%	12.7%
令和 7 年	10.8%	3.8%	5.1%	7.0%	17.9%	11.7%	24.1%	4.8%	15.0%

③ 地区別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客数を地区別にみると、安芸地区①では関東地方、近畿地方の順で割合が高く、県北部の芸北地区及び備北地区においては、山陽地方、山陰地方の順で割合が高くなっている。

図表 1-13 地区別・発地エリア別観光客数の割合(令和 7 年)

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
県全体	10.8%	3.8%	5.1%	7.0%	17.9%	11.7%	24.1%	4.8%	15.0%
安芸地区 ①	3.9%	1.5%	3.9%	6.4%	15.7%	13.9%	27.3%	6.4%	21.0%
安芸地区 ②	15.7%	8.1%	7.7%	8.3%	21.2%	8.9%	23.1%	3.3%	3.8%
芸北地区	51.1%	13.7%	3.8%	10.9%	8.1%	2.3%	7.2%	0.8%	2.1%
備後地区	17.7%	4.2%	6.1%	7.2%	22.4%	9.8%	21.5%	2.5%	8.5%
備北地区	29.4%	27.2%	13.7%	8.5%	14.2%	1.5%	3.7%	0.6%	1.0%

④ 市町別にみた県内・県外観光客数の状況

総観光客数の上位4市及び呉市においては、県外観光客の割合が50%以上になっている。

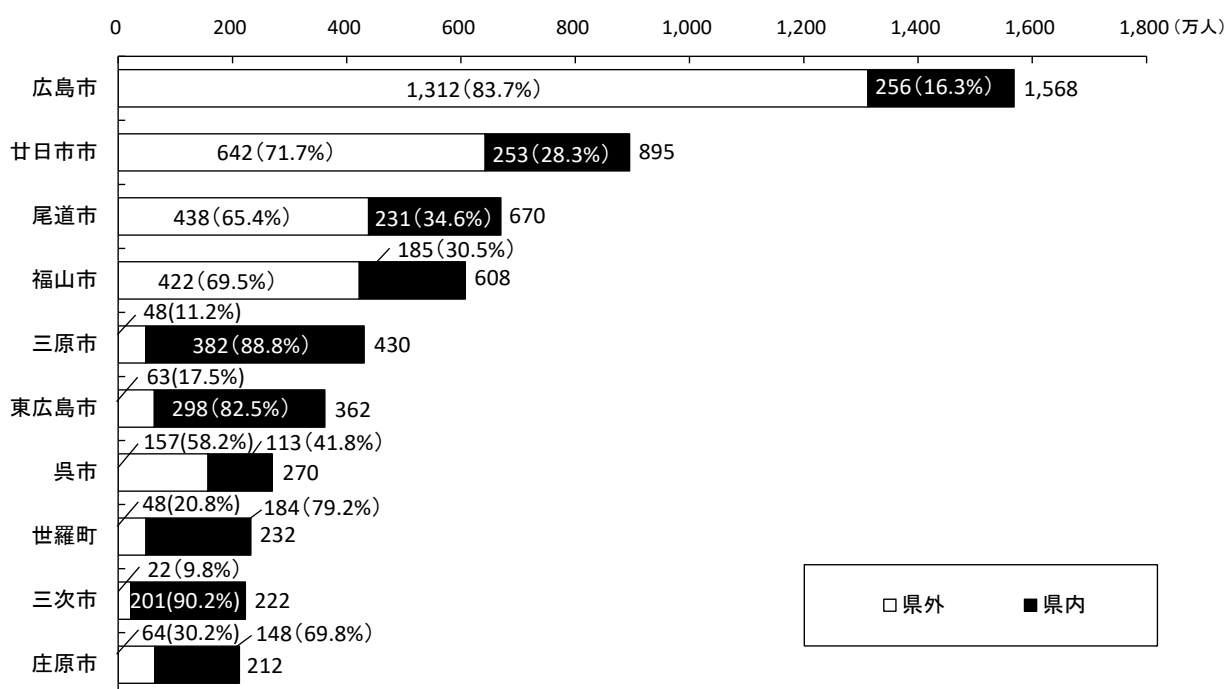
上位4市よりも5位の三原市及び6位の東広島市の方が県内観光客数は多く、総観光客数が上位の市町は県外観光客が全体を押し上げていることが見受けられる。

総観光客数の上位10市町をみると、県外観光客が最も多いのは広島市で1,312万人であった。

また、総観光客数の上位10市町の中で、県外観光客の割合が県全体の平均30.6%を上回っているのは、広島市(83.7%)、廿日市市(71.7%)、尾道市(65.4%)、福山市(69.5%)、呉市(58.2%)の5市であった。

一方、総観光客数の上位10市町の中で、県内観光客の割合が最も大きいのは三次市(90.2%)、次いで三原市(88.8%)であった。

図表1-14 市町別・県内・県外別観光客数の状況(令和7年、上位10市町)



⑤ 市町別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外からの観光客数が多い上位5市は、全て沿岸部に位置する市となった。広島市、尾道市、呉市については、関東地方からの割合が最も高く、広島市、廿日市市、尾道市においては、外国からの割合が1割を超えている。

図表1-15 市町別・発地エリア別観光客数の割合（令和7年、県外客数上位5市）

区 分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	北海道・東北	外国
広島市	2.1%	1.0%	4.2%	6.9%	14.8%	15.6%	29.8%	6.0%	19.5%
廿日市市	6.0%	2.5%	3.1%	5.3%	17.8%	10.7%	22.6%	7.6%	24.5%
尾道市	8.0%	2.2%	4.2%	6.3%	22.7%	12.1%	24.3%	4.2%	16.1%
福山市	19.5%	3.7%	5.9%	9.1%	24.8%	9.9%	23.2%	1.4%	2.5%
呉市	6.8%	2.4%	5.0%	10.6%	25.2%	9.7%	32.9%	4.2%	3.2%

(4) 目的別観光客数の状況

目的別にみると、前年に続き、「都市観光」の割合（44.0%）が最も大きいものの、「ショッピング、レストラン等」は前年と比べて割合が低下した。

図表1-16 目的別観光客数の割合（上位10項目）

区 分	都市観光		祭、 行事	神社、 仏閣	その他 スポーツ	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	自然 探勝	温泉	産業 観光	ハイキング、 登山、 キャンプ
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
平成31 （令和元）年	21.3%	18.3%	15.7%	7.9%	6.3%	7.7%	5.0%	3.6%	2.2%	2.5%
令和6年	26.8%	18.6%	14.9%	8.4%	5.6%	5.9%	4.6%	2.9%	2.0%	2.2%
令和7年	24.3%	19.7%	15.8%	8.8%	5.9%	5.1%	4.5%	2.8%	2.2%	2.2%

（注）都市観光：都市を見たり、都市で学んだりすることを目的としたもの（ショッピング、レストラン等）：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等
（博物館、美術館等）：美術館、博物館、動・植物園、水族館等

地区別に目的別観光客数の割合をみると、すべての地区において「都市観光」の割合が最も高く、特に安芸地区①では「博物館、美術館等」、芸北地区では「ショッピング、レストラン等」の割合が高かった。

「都市観光」以外では、安芸地区及び備後地区の「祭、行事」、安芸地区②及び備北地区の「その他スポーツ」、安芸地区①の「神社、仏閣」、安芸地区②の「大規模公園、レクリエーション施設等」、備北地区の「自然探勝」等の割合が高く、各地区における観光プロダクトの特色が表れている。

図表1-17 地区別・目的別観光客数の割合（令和7年、上位10項目）

区 分	都市観光		祭、 行事	神社、 仏閣	その他 スポーツ	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	自然 探勝	温泉	産業 観光	ハイキング、 登山、 キャンプ
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
県全体	24.3%	19.7%	15.8%	8.8%	5.9%	5.1%	4.5%	2.8%	2.2%	2.2%
安芸地区①	5.9%	40.1%	22.6%	16.5%	1.8%	3.1%	2.6%	1.3%	2.1%	2.6%
安芸地区②	32.1%	11.7%	14.1%	0.0%	10.5%	10.5%	3.3%	4.4%	5.4%	1.1%
芸北地区	61.9%	0.7%	3.7%	0.1%	7.2%	0.1%	6.4%	4.1%	1.3%	2.9%
備後地区	34.0%	4.7%	12.8%	6.7%	7.4%	5.7%	5.7%	2.6%	1.5%	1.5%
備北地区	33.3%	5.3%	5.0%	0.7%	12.8%	8.6%	10.8%	7.6%	0.3%	4.4%

(5) 旅行形態別観光客数の状況

観光客を一般客、団体客、修学旅行者^(注)別にみると、一般客は前年から98万人増加して5,906万人、団体客は19万人減少して582万人となった。修学旅行者については、新型コロナ収束後の旅行需要の回復や、遠方への修学旅行の再開が進んだことなどにより、前年と比べて2万人増加し、71万人となった。

構成比でみると、県全体では一般客が約9割を占めている。エリア別にみると、備北地区では比較的団体客の構成比が高いほか、安芸地区①は修学旅行の主要訪問地が集積していることに加え、平和学習を中心とした教育旅行需要が高いことから修学旅行者の構成比も高くなっている。

なお、推移でみると、年々増加傾向にあった一般客は令和2年以降大幅に減少したが、令和4年以降は徐々に増加し、令和7年は、新型コロナ拡大前の平成31（令和元）年をわずかに上回る水準に達している。

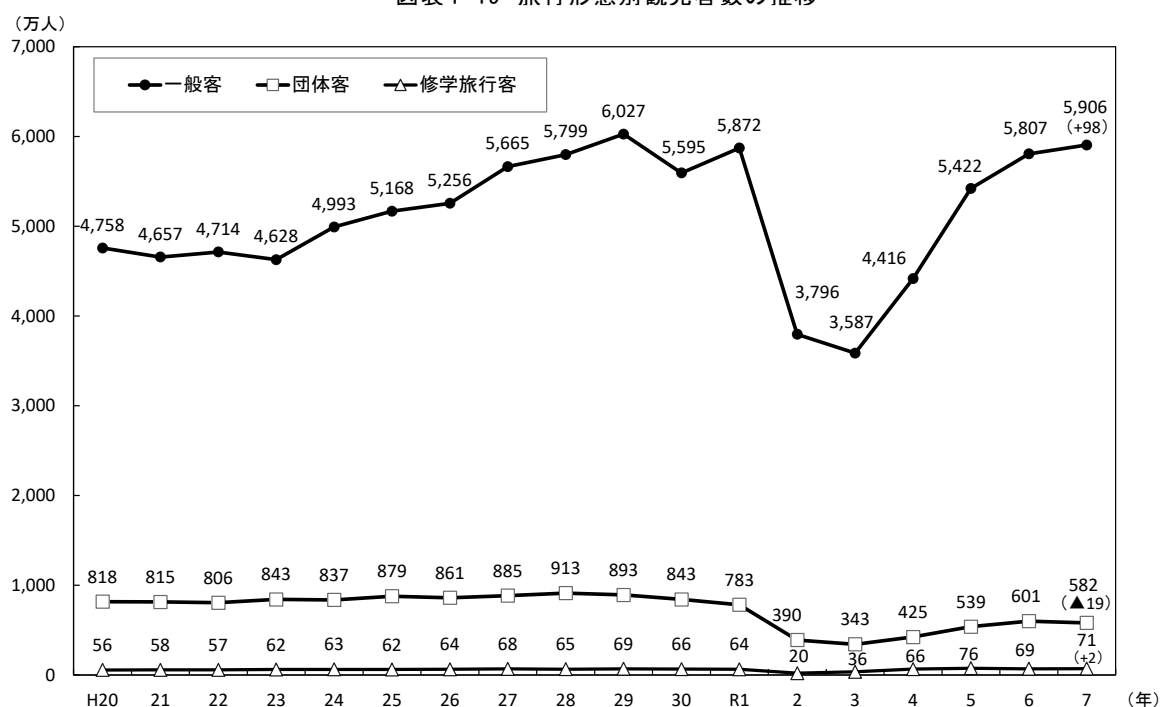
図表1-18 地区別・旅行形態別観光客数及び構成比

(単位：万人)

区 分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	5,906	90.0%	582	8.9%	71	1.1%
安芸地区①	2,301	87.0%	280	10.6%	64	2.4%
安芸地区②	852	92.1%	70	7.6%	3	0.4%
芸北地区	424	90.9%	42	9.0%	0	0.1%
備後地区	1,957	93.7%	128	6.1%	3	0.1%
備北地区	372	85.6%	62	14.2%	1	0.2%

(注) 一般客：団体客、修学旅行者以外の旅行者、団体客：10人以上の団体旅行者

図表1-19 旅行形態別観光客数の推移



(6) 交通機関別観光客数の状況

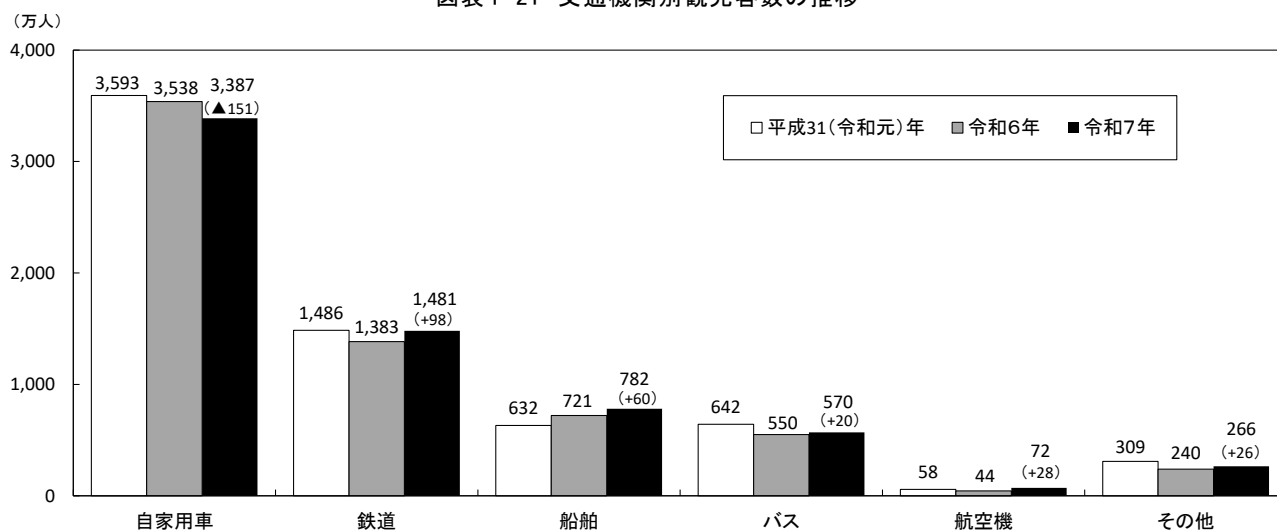
令和 7 年の交通機関別観光客数をみると、自家用車利用者が 3,387 万人と最も多く、観光客全体の 51.6%を占めている。次いで鉄道利用者が 1,481 万人、船舶利用者が 782 万人、バス利用者が 570 万人、航空機利用者が 72 万人であった。

平成 31 年（令和元年）と比較すると、自家用車の構成比が 1.9 ポイント減少した一方、船舶の構成比は 2.5 ポイント増加した。また、令和 6 年と比較すると、自家用車の構成比が 3.0 ポイント減少した一方、鉄道の構成比は 1.2 ポイント増加した。

図表 1-20 交通機関別観光客数の構成比

区 分	自家用車	鉄道	船舶	バス	航空機	その他
平成 31 (令和元) 年	53.5%	22.1%	9.4%	9.6%	0.9%	4.6%
令和 6 年	54.6%	21.4%	11.1%	8.5%	0.7%	3.7%
令和 7 年	51.6%	22.6%	11.9%	8.7%	1.1%	4.1%

図表 1-21 交通機関別観光客数の推移



(7) 月別観光客数の状況

令和7年の月別観光客数は、一部の月で前年を下回ったものの、全体としては前年を上回る水準で推移した。各月の状況については、次のとおり。

1月は、年末年始の連休期間が長く、連休を利用した外出機会が増加したことなどから、前年同月と比べて6.6%増（447万人）となった。

2月は、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）のリニューアル工事に伴う休館が影響し、前年同月と比べて3.6%減（436万人）となった。

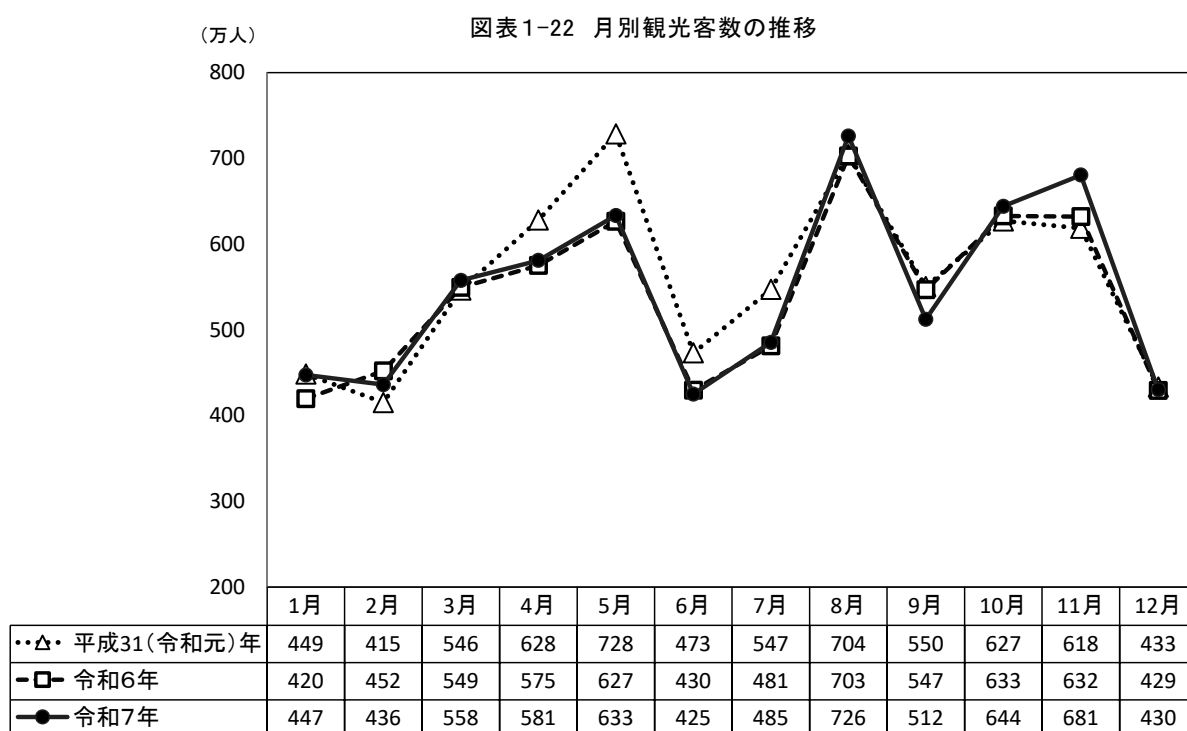
3月～5月にかけては、ミナモアの新規開業に伴う誘客効果や大型連休による観光需要の高まりから、前年同月と比べて3月は1.5%増（558万人）、4月は1.0%増（581万人）、5月は1.1%増（633万人）となった。

6月は、天皇皇后両陛下のご来訪により広島平和記念資料館や平和記念公園への関心が高まった一方、呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）の休館や、梅雨の天候不順等も影響し、前年同月と比べて1.0%減（425万人）となった。

7月～8月は、例年に比べて梅雨明けが早く、天候不良による外出機運の低下が少なかったことから、前年同月と比べて7月は0.9%増（485万人）、8月は3.3%増（726万人）となった。

9月は、前年同月を上回る降水量の影響により屋外観光施設を中心に観光客数が減少し、前年同月と比べて6.3%減（512万人）となった。

10月～12月は、県内各地で紅葉やクリスマスなどのイベントや祭事があったことや、11月は2度の3連休を中心に外出機運が高まったことから、前年同月と比べて10月は1.8%増（644万人）、11月は7.7%増（681万人）、12月は0.2%増（430万人）となった。



2 外国人観光客数の状況

(1) 外国人観光客数の概況

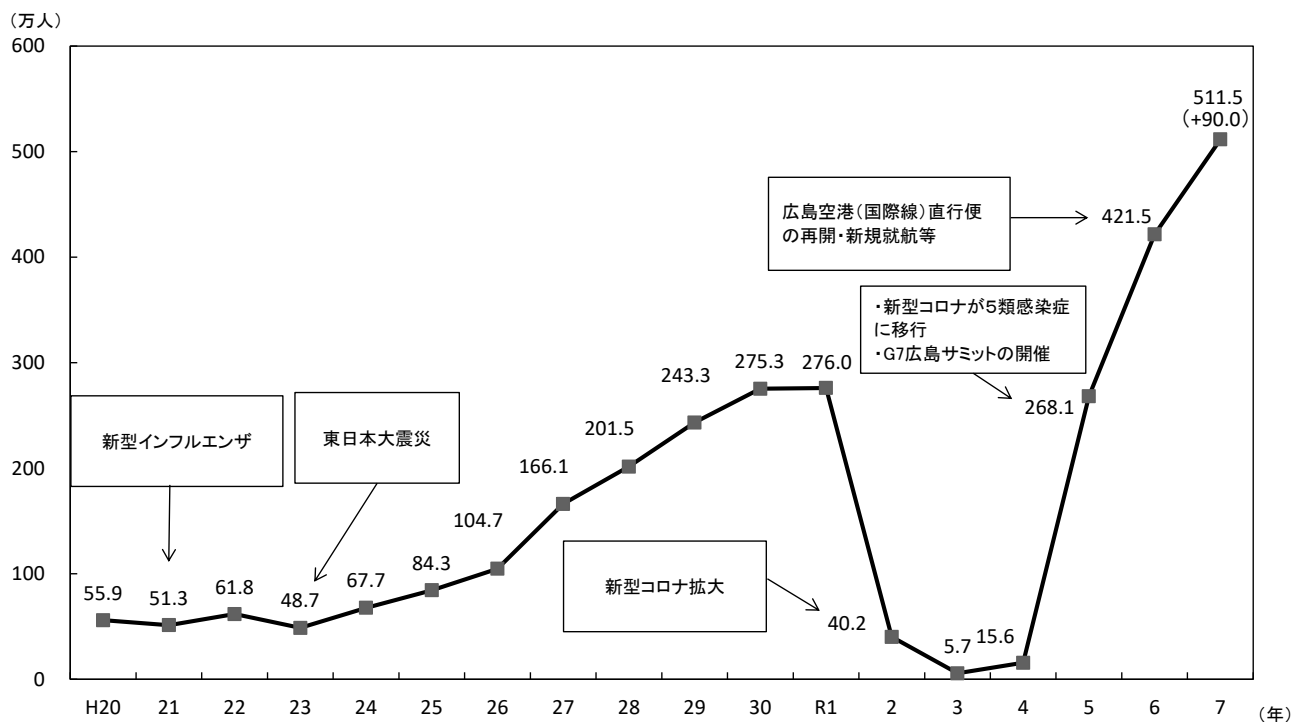
外国人観光客数は、平成 31（令和元）年まで 8 年連続で過去最高を更新していたが、令和 2 年に 9 年ぶりの減少に転じ、その後も低い水準で推移した。令和 4 年以降は回復傾向が続いており、令和 7 年は、継続的な円安による訪日需要の高まりに加え、広島空港国際線の増便等による利便性向上の影響もあり、前年と比べて 90 万人増の 511.5 万人となった。これは、新型コロナ拡大前の平成 31（令和元）年と比べて 235.5 万人（85.3%）の増加となり、過去最高を記録した。

図表2-1 外国人観光客数の比較

（単位：万人）

区 分	平成 31 (令和元)年	令和 6 年	令和 7 年	増減数 R 7 - R 6	増減率 R 7 / R 6	増減数 R 7 - R 元(H31)	増減率 R 7 / R 元(H31)
外国人 観光客数	276.0	421.5	511.5	+90.0	+21.4%	+235.5	+85.3%

図表 2-2 外国人観光客数の推移



(2) 市場別外国人観光客数の状況

市場別外国人観光客数をみると、令和7年は、アメリカが最も多く786.8千人(+231.2千人)、次いでイギリスが437.3千人(+145.2千人)、オーストラリアが380.2千人(+54.7千人)の順となった。

図表2-3 市場別外国人観光客数の順位（上位10市場）

（単位：千人）

順位	市場名	平成31 (令和元)年	令和 6年	令和 7年	増減数 R7-R6	増減率 R7/R6	増減数 R7-R元(H31)	増減率 R7/R元(H31)	R6 順位
1位	アメリカ	369.3	555.6	786.8	+231.2	+41.6%	+417.5	+113.0%	1位
2位	イギリス	198.9	292.2	437.3	+145.2	+49.7%	+238.4	+119.9%	4位
3位	オーストラリア	227.0	325.5	380.2	+54.7	+16.8%	+153.2	+67.5%	2位
4位	台湾	264.3	262.5	376.8	+114.3	+43.6%	+112.5	+42.6%	5位
5位	フランス	184.5	322.4	372.9	+50.4	+15.6%	+188.4	+102.1%	3位
6位	ドイツ	103.1	210.9	280.5	+69.5	+33.0%	+177.4	+172.0%	7位
7位	韓国	72.9	246.8	241.8	▲5.0	▲2.0%	+168.9	+231.9%	6位
8位	イタリア	68.1	177.5	221.0	+43.4	+24.5%	+152.8	+224.3%	8位
9位	中国	169.4	154.5	217.4	+63.0	+40.8%	+48.1	+28.4%	9位
10位	スペイン	85.6	148.4	203.5	+55.1	+37.2%	+118.0	+137.9%	10位

地域別に外国人観光客の割合をみると、令和7年はアジア市場からの観光客が全体の24.6%、欧米豪市場からは56.3%、その他が19.1%であった。前年と比べ、令和7年は広島空港国際線直行便の増便等を背景に、アジア市場及び欧米豪市場の割合がともに増加した。

図表2-4 地域別外国人観光客数及び構成比の比較

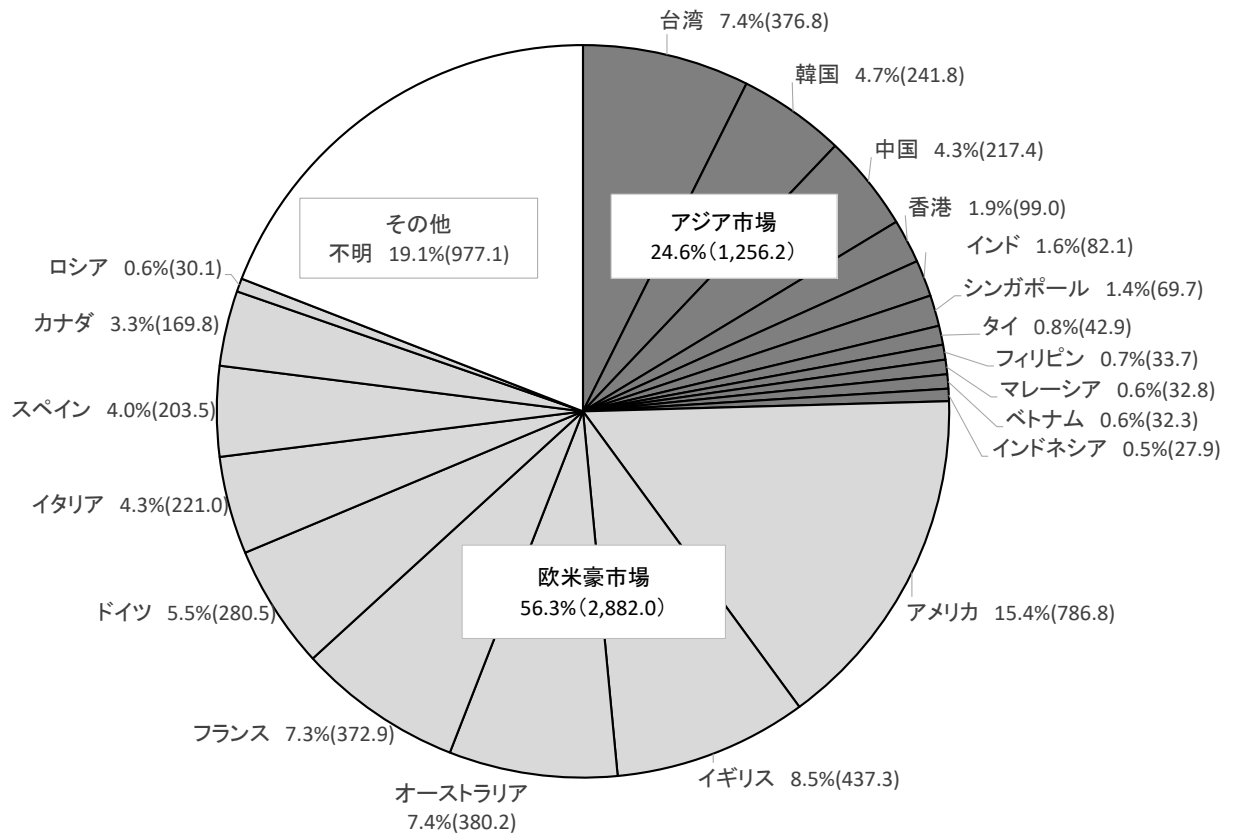
（単位：千人）

区 分	アジア市場	欧米豪市場	その他・不明
平成31（令和元）年	794.9 (28.8%)	1,315.0 (47.6%)	650.2 (23.6%)
令和6年	898.7 (21.3%)	2,164.9 (51.4%)	1,151.4 (27.3%)
令和7年	1,256.2 (24.6%)	2,882.0 (56.3%)	977.1 (19.1%)

（注）（ ）内は構成比を示す。

図表 2-5 市場別外国人観光客数の割合

(単位：千人)



3 宿泊客数の状況

(1) 宿泊客数の概況

令和7年の宿泊客数は、1,185万人泊で、前年と比べて18万人泊（+1.6%）増加した。
うち外国人は188万人泊で、前年と比べて8万人泊（+4.5%）増加した。総観光客数と同様に、新型コロナの収束に伴う観光需要の回復に加え、円安の進行や広島空港における国際線直行便の新規就航、さらにはG7広島サミットを契機とした中長期的な認知向上を背景に訪日需要が高まり、新型コロナ拡大前の平成31（令和元）年と比べて177万人泊増（+17.5%）、うち外国人は58万人泊増（+44.8%）となった。

図表3-1 宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区 分	平成31 (令和元)年	令和6年	令和7年	増減数 R7-R6	増減率 R7/R6	増減数 R7-R元(H31)	増減率 R7/R元(H31)
宿泊客数	1,009 (130)	1,167 (180)	1,185 (188)	+18 (+8)	+1.6% (+4.5%)	+177 (+58)	+17.5% (+44.8%)

（注）（ ）内はうち外国人宿泊客数を示す。

(2) 地区別宿泊客数の状況

地区別にみると、宿泊客数が最も多い安芸地区①は、前年と比べて14万人泊増加し783万人泊（+1.9%）となった。

なお、外国人宿泊客数については、新型コロナ拡大前の平成31（令和元）年と比べると安芸地区、備後地区は増加となった。

図表3-2 地区別宿泊客数の比較

（単位：万人泊）

区 分	平成31 (令和元) 年	令和 6年	令和 7年	増減数 R7-R6	増減率 R7/R6	増減数 R7-R元(H31)	増減率 R7/R元(H31)
安芸地区 ①	665 (118)	768 (156)	783 (164)	+14 (+8)	+1.9% (+5.2%)	+118 (+46)	+17.7% (+39.4%)
安芸地区 ②	130 (4)	131 (13)	134 (9)	+3 (▲4)	+2.5% (▲29.6%)	+4 (+5)	+3.3% (+107.3%)
芸北地区	10 (0)	8 (0)	8 (0)	0 (▲0)	+5.0% (▲55.3%)	▲1 (▲0)	▲14.9% (▲93.5%)
備後地区	171 (7)	233 (11)	233 (15)	+1 (+4)	+0.3% (+32.6%)	+62 (+8)	+36.1% (+101.8%)
備北地区	33 (0)	28 (0)	27 (0)	▲1 (+0)	▲2.2% (+141.2%)	▲6 (+0)	▲17.4% (+6.7%)

（注）（ ）内はうち外国人宿泊客数を示す。

また、宿泊客数の地区別構成比は、安芸地区①が 66.0%で最も高く、次いで備後地区の 19.7% 安芸地区②の 11.3%となった。平成 31（令和元）年と比べると安芸地区①は 0.1 ポイント増、備後地区は 2.7 ポイント増となっており、その他エリアについては全て減少した。

なお、令和 6 年と比較すると大きな変動はみられず、各地区とも概ね前年と同様の構成となった。また、外国人宿泊客の地区別構成比は安芸地区①が 87.1%と大半を占めており、前年から 0.6 ポイント増、平成 31（令和元）年からは 3.4 ポイント減となったものの、引き続き高い水準を維持している。

図表 3-3 宿泊客数の地区別構成比

区 分	平成 31（令和元）年 構成比	令和 6 年 構成比	令和 7 年 構成比	増減 R 7 -R 6	増減 R 7 -R 元（H31）
安芸地区①	65.9% (90.5%)	65.8% (86.5%)	66.0% (87.1%)	+0.2pt (+0.6pt)	+0.1pt (▲3.4pt)
安芸地区②	12.8% (3.4%)	11.2% (7.1%)	11.3% (4.8%)	+0.1pt (▲2.3pt)	▲1.6pt (+1.5pt)
芸北地区	1.0% (0.3%)	0.7% (0.0%)	0.7% (0.0%)	+0.0pt (▲0.0pt)	▲0.3pt (▲0.3pt)
備後地区	17.0% (5.7%)	19.9% (6.2%)	19.7% (7.9%)	▲0.2pt (+1.7pt)	+2.7pt (+2.2pt)
備北地区	3.2% (0.2%)	2.4% (0.0%)	2.3% (0.1%)	▲0.1pt (+0.1pt)	▲1.0pt (▲0.0pt)

（注）（ ）内は外国人宿泊客の構成比を示す。

(3) 月別宿泊客数の状況

令和7年の月別宿泊客数は、一部の月で前年を下回ったものの、全体としては前年を上回る水準で推移した。各月の状況については、次のとおり。

1月は、年末年始の連休期間が長く、連休を利用した外出機会が増加したことなどから、前年同月と比べて3.1%増（75万人泊）となった。

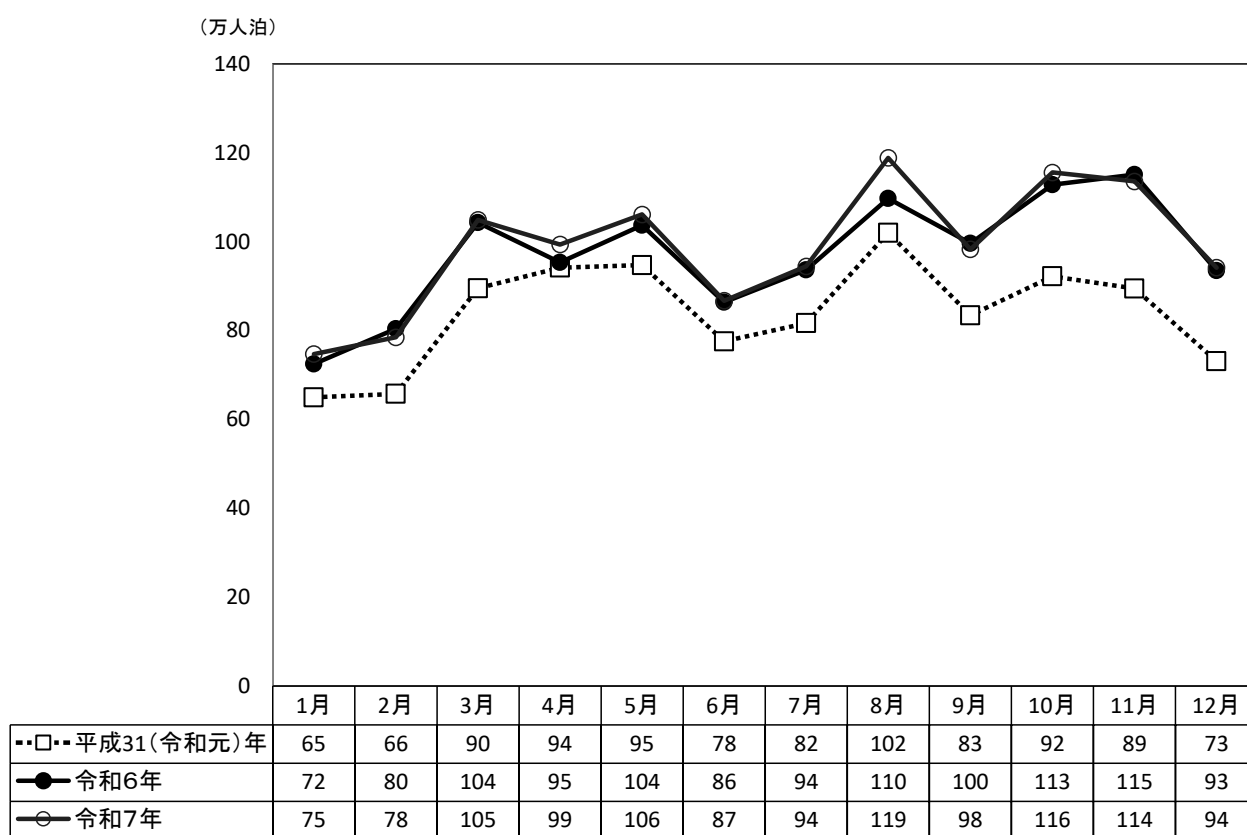
2月は、外国人観光客が大幅に増加した一方で、県内主要観光施設の休館や、強い寒気の影響により気温が低い日が続いたことから、前年同月と比べて2.4%減（78万人泊）となった。

3月～5月は、イースター休暇による訪日需要の拡大が影響し、前年同月と比べて3月は0.6%増（105万人泊）、4月は4.2%増（99万人泊）、5月は2.3%増（106万人泊）となった。

6月～8月は、広島空港国際線の増便に加え、全国高等学校総合体育大会開催の影響により稼働率が高まった施設もあり、前年同月と比べて6月は0.4%増（87万人泊）、7月は0.8%増（94万人泊）、8月は8.3%増（119万人泊）となった。

9月～12月は、中国政府による渡航自粛の呼びかけの影響により中国人観光客が減少した一方で、欧米豪市場からの観光客は増加し、全体としては、前年同月と比べて9月は1.4%減（98万人泊）、10月は2.4%増（116万人泊）、11月は1.3%減（114万人泊）、12月は0.7%増（94万人泊）となった。

図表3-4 月別宿泊客数の推移

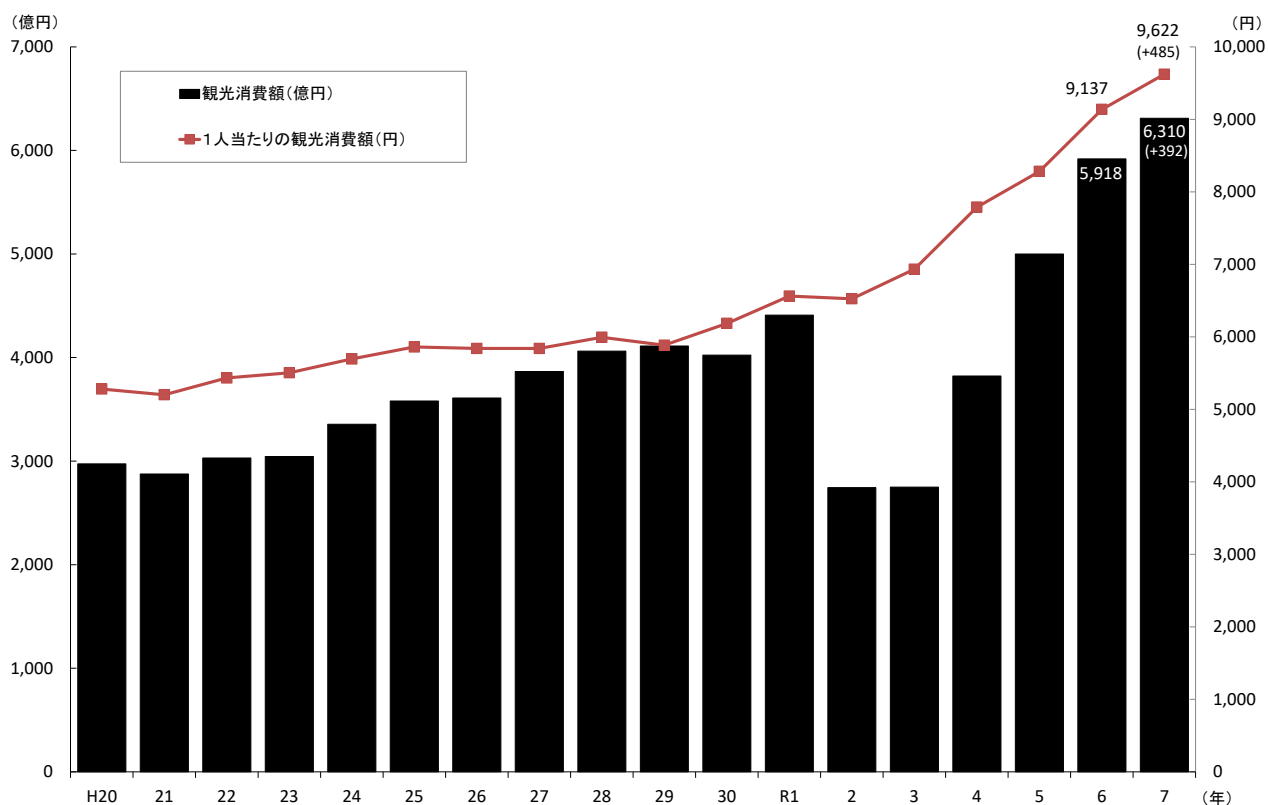


4 観光消費額の状況

令和7年に、観光客が本県において交通費、宿泊費、土産代、飲食代、入場料等に消費した観光消費額の総額は6,310億円で、前年と比べて392億円（+6.6%）増加した。

また、1人当たりの観光消費額^(注)は9,622円で、前年と比べて485円（+5.3%）増加した。前年から継続する物価高による土産代、飲食代等の高騰や人件費、宿泊費単価等の上昇により、観光消費額単価も増加したものと考えられる。

図表4 観光消費額の推移



区 分	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
観光消費額 (億円)	2,974	2,876	3,030	3,045	3,356	3,580	3,610	3,865	4,062
1人当たりの観光消費額 (円)	5,280	5,201	5,433	5,504	5,695	5,860	5,840	5,840	5,994

区 分	平成29年	平成30年	平成31 (令和元)年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
観光消費額 (億円)	4,112	4,023	4,410	2,745	2,750	3,822	4,999	5,918	6,310
1人当たりの観光消費額 (円)	5,884	6,185	6,562	6,525	6,933	7,789	8,282	9,137	9,622

(注) 1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数

Ⅲ 観光客数統計表